The Osaka University Library Bulletin

# 大阪大学図書館報

Vol. 9, No. 2/3 July 1975

目　次

○読むこと
○いちょう祭展示会開催
○昭和50年度速報誌目次配布サービスについて（報告）
○人間科学部図書分室開室
○学生希望図書（受入済）
○教官著作寄贈図書
○本館受入参考図書
○会　議
○日　程
○人　事

## 読むこと

茅　野　良　男

この文は読まれるために書かれたものである。書くためには考えていなければならない。しかし考えうるためには十分に読んでいなければならぬ。では十分に読むということはどういうことであるのか。

ショーペンハウアーは比類のない読書家であった。その論敵のヘーゲルも丹念に本を読み忠実に抜粋をする名人であり、彼の弁証法的思索にも悟性的な材料集めの裏づけがある。ところで、少く読んで多く考えるのが真の思索家であり、自分で考える人はあまり他人の書いたものをあれこれと読んだりはしないものだと言われもする。それどころか、これを公言したり、表面的に実行したりする人すら少くはない。たしかにショーペンハウアーも言っている。「多量の読書は精神からしなやかさというものをことごとく奪い去る」と。それにもかかわらず、彼の書いたものはねばり強くてしかも繊細であり、奥行きがあってしかも幅がある。ベルリン大学で全盛期のヘーゲルと同じ時間に開講してみごと失敗した彼は、民間の学究として長いこと不遇をかこったが、生涯の終りになって一気にその努力が世間から認められた。それは別としても、「教授連」「哲学教授連」に対する彼の攻撃はきわめて激しい。フィヒテやシェリング、ことにヘーゲルにあびせた悪罵の数かずは、今日読み返すと痛快ですらあるが、ヘーゲルおよびその学派が全盛をきわめる当時としては、黙殺され、いな歯牙にかけられもしなかったといってよい。けれども彼らはすべてショーペンハウアーによれば「学者ども」である。学識ある人びと、つまり博識の徒輩である。「学者どもとは、もろもろの

本のなかで読んだ人びとのことである」。彼らは何を読んだというのか。「読まれたもろもろの思想は他人のものであって、他人が食べ残したものであり脱ぎ棄てた古着なのである」。けれどもこの程度の雑言にうっかり乗っかってはなるまい。われら教授連としてはどう反撃すべきであろうか。

本のなかで読む。これはむしろ当然なことではあるまいか。本のなかに籠められている学者たちの思索の筋道を一歩一歩と追うこと。その前提つまり必ずしも明示されているとはいいがたい想定なり仮定なりにまでこちらの側で遡源してゆくこと。その前提の歴史性と社会性とを今日の状況からの距離と落差とで判定し見とどけること。この限界内でその本のなかの主題が組織的・体系的に破綻なく展開されているかどうかを内在的に見抜くこと。その思想が同時代ないし過去との連関においてどのように位置づけられ、したがってそれとの比較や対照によってどのような意味をもちうるかをさぐること。これならば、文学部の諸講座でも筆者の講座でも、学生たちと共に「演習」するときの、つまり種子を蒔くときの心構えではなかろうか。

本を読む。それは私どもの学問の内部でいうと、まれな場合を除けば、読む当人以外の誰かがすでに著わした本や論文を読むことである。読むためには目や手が働かねばならぬ。けれども一番大切なのは心の働きである。それを前提として、他人がすでに思索したその足跡を成果から逆に追跡することである。この追跡は決して機械的な再現ないし反覆ではありえない。それは意味をさぐり、意味を表立たせ、意味を発見し、意味を与える対話である。これは自分で考え思索しうるという理想の境地へと近づく手段であり、とりわけ文科系の学問の大多数にとっては必須の方途つまり方法である。それをことさら解釈学と呼ぶと否とにかかわらず、少くとも私どものような哲学系の学問では、古典を読み、それと格闘することがフィロゾフィーレンを学ぶための王道である。この王道を歩むためのデスク・ワークが私どものフィールド・ワークなのである。この意味では本がセンス・データであり、むしろデータ一般であり、格闘と対決とのフィールドであり、実験の場となるのである。

本を読むことは、思想という抽象的であって不透明な姿をまず示す実体と格闘することである。読み進むにつれてこちら側も変化する。それにつれて相手も次第に半透明となり、やがてその透明の度合いも増してゆく。それと同時に、まだ気がついていなかった深みの深淵の不気味さに驚嘆させられもする。ともかく、読むことのなかで思想はその形姿をおもむろに示現してゆく。したがって、いささかでも読む心得のある人、いささかでも自分で考え思索する習性の人であってはじめて、自立的にすでに考え思索した人びとの軌跡としての著作を読みこなすにいたりうるであろう。すなわち自分で考えるということは、読む練習によって、つまり自分の心を相手の思索の動きとリズムとに応対させ、相手と共に考えてゆくことにおいて、すなわち真意の読み取りの訓練によって、はじめて形作られるのである。フィロゾフィーレンを学ぶということはミットフィロゾフィーレンを遂行するということである。自分で考えるというのは、訓練や相手なしにただ一人で何でも考えることではない。自分をすでに完成し出来上った自己とみなすならば、もはや考える必要はない。考え思索することを忘れるならば、発展し展開する余地はもはや自分には残っていない。それゆえに多量の読書というものは、自分で考え思索することを培養する素材とならない限りでは、好事家を生み、数奇者を作り出す。それはそれで無意味ではない。けれどもショーペンハウアーの趣意に即していえば、精神はおよそ好事家たることに満足しうるものではありえない。

ショーペンハウアーの舌鋒は鋭い。彼の念頭にあるのは「学者ども」ではない。真実の「思索家、天才である人びととは、世界の蒙昧を啓発するつまり人類の前進を促す人びとであっ

て、世界という本のなかでじかに読んだ人びとのことなのである」。学者どもは本を世界とするが、したがって世間知らずであるが、世間も世界も同じ字に基づくとすれば、デカルトもこれと同じ趣旨のことを述べている。彼はラフレーシュやポワティエで学んだあと、「もろもろの本の研究」を全くやめ、「私自身のうちに」見出されうるか、「世間という大きな本のなかで」見出されうるかの「学問」以外は探究しまいとかたく決心した。このデカルトの決意も、「ヨーロッパの最も有名な学校の一つ」で「私の先生たちの手」によって「他の人びとの学ぶことはことごとく学んだ」そのあとのことであった。われ思う、故にわれ在りという近代哲学の根本原理の確立も、決して無から生まれ出たものではない。少くともデカルトにとっては、それは厳格な研究指導のもとに、旧制高校的にいえば万巻の書を読む準備の季節の通過を前提としており、しかもそこで与えられ獲得した知識や理論では解きえない課題、つまり文字通り自分自身の前に投げ置かれた問題に直面しえたからなのであった。

ここでもやはり真の自立的な思索、真に固有で独特な思索というものは、はじめから準備や努力なしに与えられ到来するものではないということが思い知らされる。ごく少数の天才は別としよう。けれども天才たちといえども、その独自の思索や思想というものには、それが独自なものであればあるだけ、いよいよ生誕の苦しみが切実であり、生まれ出るための悩みがより痛切である。天才でなくても、思索の成果として出来上ったものは美しく整ってはいるが、往々にして、しかも学問が方法化され、対象的・主題的に数量化と抽象化との方向をたどればたどるだけ、それだけ一層、生みの母胎の陣痛の苦しみはそれとしては全く表立たず、したがって伝わりもしない。創造の秘密は既存の理論の存在を前提とし、しかもそれのなかではみつからない幸運な思いつきの突発的な襲来に依存する。その思いつきの静かで突然の到来も、既存の理論で解けぬ謎をめぐっての闇と苦しみとの唯中で、不断に見張り身構える精神の緊張によってこそ、ようやく心の耳に聴き取りうるものとなる。心の目で読むことは、聴き取りうる心の耳をも育成するのでなければならぬ。

学ぶことは模倣し真似ることにはじまる。読むことはそのための重要な手段である。よく読んでこそ自分で考え思索しうる素地がおもむろに築かれる。なるほど「読まれたもろもろの思想は他人のものであって、他人が食べ残したものであり脱ぎ棄てた古着なのである」。けれども、たとえ食べ残しや古着であっても、そこから古人や他人の生活状態、ひいてはその世界、さらにはそれらの歪みも明らかとなり、この明晰化と共に、真に己れ自身の言葉への努力にも方向が定まるといいうる。その反面、読書はしばしば食べ残しや古着を馳走そのもの、美服それ自体と思い誤らせる誘惑や危険をも内含している。心すべきことは、「もろもろの本の研究」とは既存の思想の研究であるということであり、真の己れの思想のゆるやかな形成のためには、既存の理論ないし思想のあますところのない読みのうえで、それらの思想とそれらに対して意義づけをする自分との関わり合いそのものの意味を、「世界という本のなかで」「世間という大きな本のなかで」「じかに」読むということであろう。もろもろの本、もろもろの思想を、もろもろの文脈として相対化し、それらに向き合う己れの見解や想定をもたえず独断や先入見ではないかと吟味する相対化の努力を続け、これらを意味づけうる原典としての原文の脈絡を探し求めること、これこそ「世界という本のなかでじかに」読むということであろう。けれども今日の我々にとっては、世界はショーペンハウアーのように直観しうる世界だけではなく、世間はデカルトのようにヨーロッパだけのものではない。原典と原文としての世界や世間自体がじかに与えられてはいないのである。この世界なり世間なりという原典のなかで読むこと自体が、もろもろの文脈をさまざまな意図や方法で読むことから統制的に規制されているのである。

（人間科学部教授　人間学講座）

# いちょう祭展示会開催

昭和50年度本学いちょう祭は、５月１日(木)、２日(金)の２日間にわたり開催されたが、その行事の一環として、附属図書館・開架図書閲覧室を利用し、５月２日12時半から16時までの間、展示会を行ない、父兄、学生および教職員等多数の参観者があり盛会のうちに催された。本展示会では、おおむね次のような貴重図書資料等を展示した。

◎文学部

１．懐徳堂関係史料

学問所建立記録、懐徳堂定約附記、懐徳堂記帖、逸史献上記録、逸史、萬年先生論孟首章講義、中庸、非物篇、詩集伝、楚辞二種、碩果先生文稿、深衣図解、紙製深衣、聖賢扇、入徳門聯、木司令、鏤板方鑪、懐徳堂絵図屏風、懐徳堂幅、懐徳堂壁署、竹山先生易幅、一行書、並河寒泉先生出懐徳堂歌、辛己歳旦詩幅、冽菴先生幅、帰馬放牛図

２．適塾関係史料

緒方洪庵木像、ジーフ辞書、松香私志、病学通論、扶氏経験遺訓、扶氏医戒之略

３．含翠堂関係史料

含翠堂木額、含翠堂記、伊藤東涯・含翠堂にて講義の図、富永芳春請合一札、含翠堂手簿、平野郷検地帳

４．忍頂寺文庫

出羽掾正本抜本、心中歌祭文、豊後節、兵庫口説、都々逸、瓦版はやりうた

５．大阪地方の戦国・近世文書

平野郷名主等連判状、桑津村宗旨改帳、近世絵図写

◎法学部

１．江戸時代の離別状

２．民法草案人事編理由書　上巻・下巻

◎経済学部

１．豪商の記録

加賀藩の掛合控、広島藩の掛合控

２．大阪三郷の水帳

３．堺県の高札

◎教養部

１．マチカネワニ

昭和39年理学部新築のため整地工事が行なわれていた際発見された化石ワニで、その全長は８ｍに及び、日本で最初に発見された化石で、かつ最大のもの。

（化石の展示は、教養部地学教室にて）

◎事務局

１．大阪大学の歩み（文化勲章受章者業績顕彰を含む。）

## 昭和50年度速報誌目次配布サービスについて(報告)

本館閲覧課参考掛では、47年4月から速報誌のコンテンツシートサービスを行なってきましたが、本年4月からは、昨年3月に行なったアンケート調査の結果を参考にして希望の多かった下記速報誌番号12以下の3誌を加えた14タイトルの目次コピーを自然科学系77講座を対象に配布しています。下記の表は、本年度のタイトルごとの学部別配布数一覧です。なお、このサービスの案内・申込受付は、毎年2～4月に行なっています。

速報誌番号　　速　報　誌

1. Physical Review Letters.
2. Applied Physics Letters.
3. Physics Letters, Sect. A.
4. Solid State Communications.
5. Chemical Physics Letters.
6. JETP Letters.
7. Chemical Communications.
8. Tetrahedron Letters.
9. B. B. R. C.
10. FEBS Letters.
11. Res. Communs. Chem. Pathol. & Pharmacol.
12. Electronics Letters.
13. Optics Communications.
14. Communications in Mathematical Physics.

| 学部＼速報誌番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎工学部 | 9 | 9 | 8 | 10 | 3 | 10 | 4 | 3 | 1 | 1 | | 6 | 2 | 2 | 68 |
| 理学部 | 1 | 1 | 1 | | 1 | | | | 2 | 2 | | | 1 | 1 | 10 |
| 教養部(化学) | 1 | 1 | | 2 | 2 | | 2 | | | | | | | | 8 |
| 医学部 | | | | | | | 1 | | 5 | 4 | 3 | | | | 13 |
| 歯学部 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 薬学部 | | | | | | 1 | 4 | 5 | 1 | 1 | | | | | 12 |
| 工学部 | 11 | 13 | 8 | 9 | 5 | 6 | 2 | 2 | 1 | 1 | | 6 | 5 | 1 | 70 |
| 溶接研 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | 7 |
| 産研 | 3 | 2 | 3 | 2 | 5 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | | | | | 33 |
| 蛋研 | | | | | 2 | | | | 4 | 2 | | | | | 8 |
| 微研 | | | | | | | 1 | 1 | 3 | 3 | 2 | | | | 10 |
| 低温センター | 1 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 3 |
| 電顕 | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 計 | 27 | 28 | 21 | 25 | 19 | 21 | 18 | 15 | 22 | 18 | 5 | 13 | 9 | 4 | 245 |

## 人間科学部分室

本年３月、人間科学部新館落成にともない大阪大学附属図書館人間科学部分室として、５月12日から開室いたしました。図書室は、本館１階西側の大変明るい部屋です。面積は297㎡を有し、室内の概要は次のとおりです。

○開架式書庫(105㎡)：単行本、参考図書、新着図書を配架
○閉架式書庫(エレコンパック)(42㎡)：和洋雑誌のバックナンバー、全集類、紀要等を配架
○閲覧室(117㎡)：新着雑誌、新聞を配架、閲覧座席数50席
○複写室(11㎡)：現在機器は設置しておりません。
○事務室(23㎡)：掛員数３名

## 学生希望図書（受入済）

宇宙の四次元世界
　清家　新一　（大陸書房）
電子計算機プログラム用言語JISFORTRAN全釈
　西村　恕彦　（オーム社）
プログラム学習によるFORTRAN
　日本電信電話公社　編　（電気通信協会）
ビアス悪魔の辞典
　西川　正身　選訳　（岩波書店）
バルザック全集　１～19，22～25.　（東京創元社）
人間のための街路
　B.ルドフスキー　平　敬一　訳　（鹿島出版会）
フランス文学の精神
　佐藤　輝夫　（カルチャー出版）
ヨーロッパとの対話
　木村尚三郎　（日本経済新聞社）
サムエルソンの経済学(原書第９版)全２巻
　都留　重人　訳　（岩波書店）
ルワンダ中央銀行総裁日記（中公新書）
　服部　正也　（中央公論社）
現代日本金融論
　鈴木　淑夫　（東洋経済新報社）

## 教官著作寄贈図書

**――本　館――**

西山　敏之（教・教授）
　多体問題入門　（共立出版　昭50）
人見　勝人（かつんど）（工・教授）
　生産の計画理論　（有斐閣双書）（有斐閣　昭50）

**――吹田分館――**

池田　和義（工・教授）
　統計熱力学　（共立出版　昭50）
小笠原光信（工・教授）
　空気機械、小笠原光信、安達　勤　著　改訂版　（共立出版　昭50）

## 本館受入参考図書

昭和49年3月に受入済みのもの

明治前期書目集成、第8(1－2)補巻1、第14分冊 (明治文献資料刊行会)

国立国会図書館所蔵明治期刊行図書目録 第5巻 (国立国会図書館)

高額所得者名鑑、63版 (交詢社)

海外市場白書'74 (日本貿易振興会)

厚生白書 (厚生省)

警察白書'74

海上保安白書'74

消防白書'74

経済白書'74

子ども白書 (草土文化)

婦人労働の実情'73, 74

青少年白書'74

実用法律事典 1－11 中川善之助編 (第一法規)

国際連盟・国際連合刊行資料目録、第3巻 (国立国会図書館)

El-Hi textbooks in print 1973; Subject index, author index, title index, series index. (R. R. Bowker)

理科年表'75

原色世界の甲虫、玉貫 光一 (西日本教育図書)

リハビリテーション便覧、小池 文英編 (医歯薬出版)

科学技術白書'74

建設白書'74

コンピュータ白書'74

食料経済白書'74

通商白書'74

江戸語大辞典、前田 勇編 (講談社)

源氏物語辞典、三谷 栄一編 (有精堂)

日本における英国小説研究書誌、S.43－47年 宮崎 芳三等編 (風間書房)

## 会　議

### ――分館長会議――

50. 3. 10(月) 14：00～16：00 中之島分館会議室

1. 昭和50年度事業費予算要求について
このことについて協議の結果、原案どおり承認された。
2. 開架図書選択小委員会の組織替えについて
標記委員会の委員構成を全学的とするか、現行のまゝとするかについて協議した結果、各学部から推せんされた教官からなる委員会として、組織替えすることになった。
3. 図書館体系小委員会（仮称）の設置について
館長から、図書館の本館、分館、部局図書室のあり方等を検討するための委員会の設置について提案があり、協議の結果、図書館委員会に懇談事項として提案することとした。

### ――図書館委員会――

50. 3. 12(水) 14：00～16：00 中之島分館会議室

1. 運営費の追加配分について
本館、分館への配分方法について協議した結果、昭和49年度の運営費の当初配分方針により配分することゝなった。
2. 昭和50年度事業費予算要求について
このことについて協議の結果、原案どおり承認された。

3．開架図書選択小委員会の組織替えについて
標記委員会の委員構成は、昭和50年度から全学的にすることに決定された。
4．図書館体系検討小委員会（仮称）の設置について
館長から、本委員会設置の趣旨および検討事項等について概要説明があり、検討した結果、次回の図書館委員会で協議することゝした。

**――分館長会議――**

50．5．8（木）10：00～12：00　本館館長室

1．昭和51年度新規概算要求について
文部省に対する新規概算要求について協議した結果、原案どおり承認された。
2．5月2日、本館開架図書室で開催した「いちょう祭展示会」の概要および会計実地検査の結果ならびに国立大学図書館協議会学術情報に関する特別委員会が実施する「研究者の情報要求と利用に関する調査」について報告が行なわれた。

**――図書館委員会――**

1．昭和50年度図書館予算配分について
昭和50年度図書館予算(運営費、事業費)の本館、分館別等の配分について協議の結果、原案どおり承認された。なお、本年度の運営費については、文部省から配賦された図書館維持費が前年度に比し大巾に増額されたため、部局分担金の徴収はやらないことに決定された。
2．図書館体系検討小委員会の設置について
本学附属図書館の組織体系および機能等について、現状と問題点および将来的展望を検討するため、館長、各分館長および豊中地区運営委員長のほか、各地区から、それぞれ選出された二名の委員をもって小委員会を設けること等が決定された。

## 日　　程

50年3月10日　分館長会議　（附属図書館長室）
50年3月12日　図書館委員会　（中之島分館会議室）
50年3月13日　近畿地区国公立大学図書館協議会　参考図書に関する委員会
（大阪教育大学附属図書館）
50年3月31日　学術情報の流通に関する特別委員会　（第7回）（京都大学附属図書館）
50年4月18日　近畿地区国公立大学図書館協議会　参考図書に関する委員会
（京都大学附属図書館）
50年4月18日　第3回日米大学図書館会議実行委員会　（第2回　京都大学附属図書館）
50年4月22日　国立大学図書館協議会　大学図書館改善調査研究会
（第7回　東京大学総合図書館）
50年4月22日　国立大学図書館協議会　常務理事会
（昭和49年度第4回　東京大学総合図書館）
50年4月23日　国立大学図書館協議会　理事会　（東京大学総合図書館）
50年4月23日　国立大学図書館協議会　昭和50年度岸本賞励賞選考委員会
（東京大学総合図書館）
50年4月24日　近畿地区国公立大学図書館協議会　第15回図書館統計に関する委員会
（京都大学附属図書館）

50年5月6日　国立大学図書館協議会　近畿地区協議会　（京都大学附属図書館）
50年5月8日　分館長会議　（附属図書館長室）
50年5月20日　国立大学図書館協議会　大学図書館改善調査研究会
（第8回　東京大学総合図書館）
50年5月21日　〃　昭和50年度岸本賞励賞選考委員会
（東京大学総合図書館）
50年5月21日　国立大学図書館協議会　常務理事会
（昭和49年度第5回　東京大学総合図書館）
50年5月27日　近畿地区国公立大学図書館協議会　企画委員会
（大阪大学附属図書館中之島分館）
50年5月28日　学術情報の流通に関する特別委員会　（第8回）（京都大学附属図書館）
50年6月5日～6日　第22回国立大学図書館協議会総会　（山口市民会館）
50年6月6日　近畿地区国公立大学図書館協議会　第16回図書館統計に関する委員会
（大阪市立大学附属図書館）
50年6月13日　第44回近畿地区国公立大学図書館協議会総会　（京都大学附属図書館）
50年7月3日　近畿地区国公立大学図書館協議会　企画委員会　（大阪府立大学附属図書館）
50年7月4日　図書館統計に関する委員会　（京都大学附属図書館）
50年7月16日　大学図書館国際連絡委員会総会　（東京大学総合図書館）
50年7月17日　国立大学図書館協議会　常務理事会
（昭和50年度第1回　東京大学総合図書館）
50年7月18日　国立大学図書館協議会　大学図書館改善調査研究会
（第9回　東京大学総合図書館）
50年7月18日　分館長会議　（吹田分館会議室）
50年7月22日　図書館委員会　（吹田分館視聴覚ホール）
〃　開架図書選択小委員会　（吹田分館会議室）

## 人　事

**来　訪　者**

3月5日　山名　峰潤（千葉大学附属図書館　整理課長補佐）
3月17日　松村多美子（文部省学術国際局学術課　学術調査官）
〃　清水石照子、山田　幸彦（文部省情報図書館課）
4月3日　A・R・ホール氏（英国バーミンガム大学図書館員）

**職員の異動**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 辞職 | 文部事務官 | 山田　照子 | 50. 3. 31 | 本館整理課　目録掛 |
| 〃 | 事務補佐員 | 白川　明美 | 50. 3. 30 | 中之島分館 |
| 配置換 | 整理課長 | 田中　明 | 50. 4. 1 | 千葉大学医学部附属病院　管理課長 |
| 〃 | 閲覧課長 | 上島順二郎 | 50. 4. 1 | 本館　整理課長 |
| 昇任 | 整理課長補佐 | 田中　久文 | 50. 4. 1 | 東京学芸大学附属図書館　閲覧課長 |
| 〃 | 大臣官房調査統計課国内第三調査係長 | 井上　明大 | 50. 4. 1 | 本館　閲覧課長 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 昇任 | 閲覧第一掛長 | 木本 明男 | 50. 4. 1 | 本館 整理課長補佐 |
| 採用 | | 中井 恵子 | 50. 4. 1 | 事務補佐員 本館 整理課 受入掛 |
| 〃 | | 川端寿賀子 | 50. 4. 1 | 〃 中之島分館 |
| 〃 | | 林 温子 | 50. 4. 1 | 〃 吹田分館 |
| 〃 | | 長田 トヨ | 50. 4. 1 | 臨時用務員 〃 |
| 〃 | | 浦野 純子 | 50. 4. 14 | 事務補佐員 本館 整理課 会計掛 |
| 〃 | | 後藤 登 | 50. 5. 1 | 文部事務官 〃 〃 受入掛 |
| 配置換 | 受入掛長 | 谷田 功 | 50. 5. 1 | 本館 閲覧課 閲覧第一掛長 |
| 昇任 | 文部事務官 | 近藤 勝一 | 50. 5. 21 | 中之島分館 受入掛 会計主任 |
| 辞職 | 事務補佐員 | 平岡 久 | 50. 5. 31 | 本館 閲覧課 参考掛 |
| 採用 | 〃 | 清原 泰司 | 50. 6. 1 | 〃 〃 〃 |

## 図書館の概況（昭和49年度）

| 区分 | 本館 | 理学部図書室 | 基礎工図書室 | 中之島分館 | 吹田分館 | 薬学部分館 | 合計 | 昨年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 蔵書数 | 613,903 | 84,838 | 55,352 | 180,501 | 240,136 | 18,975 | 1,193,705 | 1,131,307 |
| 49年度受入冊数 | | | | | | | | |
| 1）図書冊数 | 33,458 | 5,253 | 4,511 | 6,029 | 11,861 | 955 | 62,067 | 62,651 |
| 2）雑誌種類数 | 6,330 | 651 | 878 | 2,045 | 2,936 | 228 | 13,068 | 12,793 |
| 図書費支出額(千円) | 155,976 | 33,915 | 37,834 | 45,141 | 93,212 | 8,769 | 374,847 | 358,120 |
| 施設 | | | | | | | | |
| 1）建物面積(㎡) | 7,875 | 509 | 403 | 3,027 | 3,249 | 349 | 15,412 | 15,412 |
| 2）座席数 | 998 | 49 | 126 | 198 | 240 | 50 | 1,663 | 1,680 |
| 館員数 | 48 | 6 | 6 | 23 | 16 | 4 | 103 | 93 |
| 利用 | | | | | | | | |
| 1）貸出冊数 | 55,938 | 14,028 | 13,427 | 49,926 | 23,862 | 2,695 | 159,876 | 174,084 |
| 2）貸出人数 | 24,051 | 10,837 | 11,205 | 31,784 | 19,404 | 2,138 | 99,419 | 104,588 |
| 相互利用 | | | | | | | | |
| 1）依頼件数(学内) | 917 | 582 | 534 | 1,193 | 548 | 472 | 4,246 | 3,,862 |
| (学外) | 613 | 97 | 59 | 2,516 | 230 | 127 | 3,642 | 3,768 |
| 2）受付件数(学内) | 5,071 | 18,764 | 4,125 | 25,368 | 2,719 | 264 | 56,311 | 54,135 |
| (学外) | 1,279 | 414 | — | 10,969 | 510 | 191 | 13,363 | 10,740 |
| 参考調査 | | | | | | | | |
| 1）即時調査 | 3,649 | 2,538 | 593 | 4,679 | 3,629 | — | 15,088 | 13,334 |
| 2）主題書誌作成 | — | — | — | 51 | — | — | 51 | 42 |

注）相互利用件数はXerox件数を含む

**大阪大学図書館報** Vol. 9, No. 2/3 通巻40号 昭和50年7月1日（隔月刊）
発行所 大阪大学附属図書館 豊中市待兼山町1の1（〒560） ☎ 06 (856) 1151 内線 2138